

やまなし

2023.9.28
vol.21

no. 1

contents

- 2 図書館の将来への期待
- 4 図書館利用者の声
- 5 学生にすすめる本
- 6 図書館統計
- 7 図書館トピックス
 - 都道府県統計書データベース 利用開始
 - 特別利用再開 ほか
- 8 今後のイベント紹介
 - 「生と死のコーナー」講演会〔分館〕
 - 絵画展示 ミニコンサート〔本館〕



図書館の将来への期待

コウダ タカシ
山梨大学附属図書館 館長 幸田 尚

この4月に図書館長になりました生命環境学域の幸田尚です。研究分野は分子生物学です。

さて、学生の中で図書館が好きという人もいれば、ほとんど興味がない人もいて、おそらく前者は少数派ではないかと思えます。自分が学生だった頃を思い出すと、どちらかといえば私は図書館が好きな部類だったと思えます。学部の学生の頃から特に目的もなく図書館に行って書架をうろついては面白そうな本がないか探すのが好きでした。私が大学院生になったのは1985年だったので、まだインターネットが普及するより前でしたから、研究に関連した論文を読むためには図書館に行ってコピーをするというのが日常で、学内の図書館、図書室にはずいぶんお世話になりました。また、研究室で息が詰まると図書館へ行って研究とは関係のない本を眺めることが大切な息抜きの時間でした。その後のインターネットの普及は目覚ましいものがあり、学術論文も印刷された雑誌を読むことは急速に減り、それとともに図書館に足を向けることもすっかり少なくなりました。

学術論文の電子化が進んだことは、研究者が読む論文の数の増加やチェックする掲載誌の幅の広がりを進めたと思えます。紙の雑誌を読んでいた時代は直接雑誌の目次から論文を探したり、キーワード検索も冊子体のCurrent Contentsなどをチェックする他なかったのが、PubMedをはじめとした様々なデータベースに論文がインデックスされるようになり、マイナーなジャーナルに掲載された論文でも容易に検索でき、すぐにpdfをダウンロードして読むことが当たり前になりました。しかし、基本的には大学が少なくない購読料を払ってくれているから多くの論文を読むことができるわけで、建物としての図書館から縁遠くなったものの、経済的には図書館にお世話になる度合いは高くなっています。私はいくつかの大学にお世話になり、山梨大学には2019年に着任しました。大学によって契約している雑誌が異なるので、勤務先が変わるたびにどうしてこの雑誌が読めないのかと思うこともありますが、オンラインジャーナルの契約にかかる負担は決して小さいものではなく、やむを得ないと納得しています。図書館長になってオンラインジャーナルの契約料の長期的な上昇や円安による影響などを知ると同時に図書館のスタッフの皆様が少しでも経済的に契約できるようご尽力いただいていることも目にするにつけ、我々教員の研究が多くの努力に支えられていることを痛感します。研究分野によって読む学術誌の違いもあり、全員が満足できる契約というのは難しいことではありますが、6月に参加した国立大学図書館協会の総会でも、文部科学省や内閣府の総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)においてこの問題への対策が検討されていることが紹介されていたので、

いずれは国レベルで問題が解決されていくことを期待しています。

国立大学図書館協会での議論と本学の附属図書館のあゆみを重ねてみますと、国立大学の附属図書館は2000年代の初頭に電子ジャーナルの導入とオープンアクセスへの関与が求められ、それらに一応の目処が立つと2010年代にはアクティブラーニングの促進が求められる中、授業外学習環境提供のためにラーニング commons の設置が議論されました。本学においても2014年の本館耐震工事とともにラーニング commons が設置され、設備的には十分な対応ができたと考えられます。実際にアクティブラーニング授業のために十分な活用ができていくかは検討の余地がありそうですし、医学分館においては施設的な対応ができていないまま今日に至っていることは、施設の狭隘さや老朽化と併せて附属図書館全体として考えていかなければならない課題と言えそうです。一方、2016年以降、国立大学図書館協会ではオープンサイエンスを支えデータ駆動型の科学の推進のためにオープンデータの管理を図書館が担うべきとの議論がされていて、機関リポジトリを活用した研究データの管理・公開・検索を促進するという方向性が打ち出されています。しかし、研究の現場で生み出されるデータを必要に応じて公開し、適切な管理を進めることは既定路線となっているものの、図書館がその管理に携わるべきなのか、あるいはその能力があるのかなど、まだ議論は続いていると言えそうです。

このような動きとは別に、電子ジャーナルだけではなく書籍の電子化の波は急速に広がっており、著作権法の一部が改正されたのに伴って、2022年5月から国立国会図書館でデジタル化した資料のうち絶版等の理由により入手困難なもの150万件以上がインターネット経由で個人の閲覧が可能になりました。本学の附属図書館の蔵書数が50万冊程度であることを考えるとその規模はとても大きなものです。知の基盤としてとても素晴らしいことですが、図書館の役割を見直す契機になる大きな変化と考えられます。実際少し検索してみましたが、思いがけないような本に次々出会うことができ、つい時間が経つのを忘れるほどでした。また昨年2022年から今年の間にかけて様々な生成AI、特にChat GPTなどの大規模言語モデルによる自然言語の処理が世界的に注目されています。ニュースでも目にしない日はないというほどですが、このような中、デジタル化させた書籍はもはや人間だけが読むものではなくなったとまで言われるようになり、文字によって書かれた膨大な人類の知識へのアクセスの仕方が大きく変わるのではないかとこのことを予見させます。

図書館長の任期は2年間で、浅学菲才の身にできることは限られますが、この期間に附属図書館の将来のあり方を考えるための小さな種を蒔くことができればと考えております。大学の構成員全てのお力をお借りして、将来のビジョンをともに考えて行きたいと思っています。

TOEICから専門分野まで

イトウ マホ
大学院医工農学総合教育部 工学専攻 1年 伊藤 真歩

私は現在図書館で学生相談員としてアルバイトをしています。3年次編入で山梨大学へ来ましたが、編入当初は友達もいない中でオンライン授業しかなく、同じクラスの女子に初めて会ったのは6月末になってからでした。家で授業を受けていたため学校にもほとんど行ったことがなく、図書館にも行ったことがありませんでした。大学院へ進学を希望していたためTOEICの勉強をしようと思っていました。そこで、入学式後のガイダンスの時に目にした電子ブックのサービスを利用してすることにしました。しかしログインの仕方がわからず、実験の授業で学校へ行った際に図書館へ寄り、電子ブックのログイン方法を教えていただいたのが、山梨大学の図書館を初めて利用した時でした。まだオンライン授業ばかりだったため、学校へ行く機会は少なく、課題でわからないところがあれば電子ブックで調べ、TOEICの勉強も電子ブックで行いました。高専には自宅のパソコンで本を見ることができるようサービスはなかったので高専と大学の違いに驚きつつ、非常にありがたいと思っていました。しかしながら、アルバイトの面接時に電子ブックのサービスを利用していた話をするとう、山梨大学の電子ブックのサービスを知っている学生が少ないとおっしゃられていました。わからないことはネットで調べられる時代ですが、専門分野に特化した情報や信頼性の高い情報を調べることは難しい場合があります。ネットで調べるだけではなく、電子ブックの利用も視野に入れてみてはいかがでしょうか。

図書館の色々な利用法

ヤマダ マカナ
医学部看護学科 3年 山田 真叶

高校生までの私にとって図書館とは、ただ本を借りたり、勉強するだけの場でした。しかしこの大学の図書館は「生と死」のコーナーや「学習室」などこれまでにない図書館の利用法があります。私は今まで利用していなかったこの2つの場を特に活用しています。

例えば「生と死」のコーナーではこれから医療職に携わっていく私たちにとって、死に向かう患者であったり家族であったり的心情や経過など、さまざまな視点から物語られているものが多いです。物語と言っても、実際の出来事をもとにしたものが多く、医療や看護にとって実際の患者の声を聞くという授業のような体験をすることができます。ただ授業と聞くと堅苦しく聞こえるかもしれないが、自分の読みたいものを自分のペースで読めるのが本のいいところだと思うので、気楽に利用して欲しいです。私が読んでいた中では「ライオンのおやつ」がとても印象的でした。以前の私はホスピスは入りたくない、という印象を持っていましたが、ホスピスが他の方にとっては拠り所となること、ホスピスの必要性などを自分なりに汲み取ることができました。

次に学習室の使用では、2年生の時の実習でグループのみんなと使用しました。私たちのグループは実習後の放課後に、一緒に学習室で調べ学習やアセスメントを考え合うことで、これまでにない強い絆を産むことができました。また、医学部の図書館には医療や看護に関する医学部ならではの本が無数にあり、その中での調べ学習はとても捗るものでした。調べたいときに調べられる環境、そして話し合いができる環境が図書館にはあります。学習室でグループのみんなと一緒に過ごした時間はこれからも大切な思い出になると思います。

このように医学部の図書館ならではの使用方法がいっぱいあるので、いろんな利用を開拓してみたいと思います。

● 本館 2F 文庫新書書架 953/JAN
● 医学分館 2階開架図書(第二) 953

ジャン・クリストフ

ロマン・ロラン 豊島与志雄訳 岩波文庫



勧めたい本は沢山ある。例えば、私にとって海外文学の長編は、時間のある学生時代でなければ出会えなかったものだ。その中から、『ジャン・クリストフ』をとりあげたい。

一人の人間が誕生し、音楽家として、また市民として、自由を求めて抵抗の精神と共に生き抜き、死んでゆくまでの長い時間を描いたこの作品がなぜ私を捉えたのか。再読して確かめたいが、現在の私にはその余裕がない。だが、鮮烈な印象が残っている断片はある。

まず、幼少期のクリストフの目に世界はどのように映っているか、その時期にしか感じられない世界と触れ合う感覚のようなものが、生き生きと描かれていることである。不思議なことに、私もまた幼い頃同じように感じていた、と思わせるのだ。

次に、クリストフが音楽と出会い、深めていく描写の魅力である。クリストフが祖父や父から人為としての音楽を学ぶのと同時に、叔父のゴットフリートを通して、自然の音楽とでもいべきものを知り、その葛藤の中で音楽観や人生観を育んでいく過程に惹かれた。

最後に、さまざまな女性との恋愛とオリヴィエとの友情が、クリストフの人生にどれだけ豊かな彩りをもたらしたかを、感じさせる表現の力である。前者と後者は、その持続性という面では全く異なり、若かった私は、その違いはどこから来るものなのかと考えたような記憶があるが、どちらも、深い人間関係への憧れを私に喚起させた。

おそらく、私は、クリストフの魂の軌跡を読んでいたのだろう。作品の冒頭には「いずれの国の人たるを問わず、苦しみ、闘い、そしてついには勝つべき、あらゆる自由な魂に、捧ぐ」とある。私の魂が、どれだけ自由かは心もとないが、私はこの本に励まされたのだ。



教育学部 言語教育講座

サイトウ トモヤ

齋藤 知也 教授



● 本館 2F一般書架 913.6
● 医学分館 2階開架図書(第二) 913.6/KAZ

風が強く吹いている

三浦しをん著 新潮社



毎年1月2日と3日は、テレビの前で手に汗を握って箱根駅伝を見ています。1日目、大手町の一斉スタートから終盤は箱根へ向かって坂道を登る往路、2日目は坂を下ってゴールの大手町へ戻る復路の長い道のりですが、各区間での激しい競り合い、駆け引き、何人抜きしたかなど見どころがたくさんありドラマもあります。注目の選手の走りには目が離せません。外国人選手も素晴らしい走りを見せてくれて、母国を離れて頑張っている姿は応援せずにはられません。とくに、力を出し切って倒れるまで走り続ける姿には胸が熱くなります。このように私が箱根駅伝を楽しむようになったのは、三浦しをんさんの「風が強く吹いている」を読んだのがきっかけです。この本は、とある

大学に入学した2人のランナーを主人公に、個性豊かなメンバーを巻き込んで、多くの困難があるなか、それぞれの個性を生かしながら箱根を目指すというストーリーです。小説の中の選手たちが目標に向かって挑戦して懸命に走る姿は、まさに青春そのものが描かれているように思います。また、箱根駅伝の舞台裏や、区間ごとの特徴や戦略など、実際の箱根駅伝の見どころも知ることができます。何か今しかできないことに一歩踏み出して頑張ってみようと刺激される本で、お勧めの一冊です。

医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

サクライ ダイジュ

櫻井 大樹 教授





図書館統計 令和4年度(2022)

1 図書館利用統計

(1) 開館日数・入館者数

区分	開館日数	入館者数(人)		
		学内者	学外者	合計
本館	288日	57,750	7	57,757
分館	288日	65,471	62	65,533

(2) 館外貸出冊数・参考調査取扱件数

区分	館外貸出冊数(冊)				参考調査 件数
	学生	教職員	学外者	合計	
本館	15,006	2,706	6	17,718	2,277
分館	7,408	2,324	42	9,774	1,549

(3) 相互利用

区分	貸借(単位:冊)		文献複写(単位:件)	
	貸出	借受	受付	依頼
本館	116	192	543	439
分館	28	10	1,122	693
合計	144	202	1,665	1,132

(4) 子ども図書室

開館日数	47日
入室者数	275人
貸出券発行人数	15人
蔵書冊数	4,792冊
貸出冊数	462冊

2 図書館蔵書統計

(1) 図書・雑誌蔵書数 (R5.3.31現在)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	338,740	123,579	462,319	7,610	2,520	10,130
分館	58,402	40,533	98,935	1,949	1,289	3,238
合計	397,142	164,112	561,254	9,559	3,809	13,368

(2) 図書・雑誌受入数 (R4年度)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	2,159	120	2,279	435	34	469
分館	1,334	10	1,344	284	20	304
合計	3,493	130	3,623	719	54	773

都道府県統計書データベース 利用開始

オンライン版都道府県統計書データベースの利用を開始しました。

こちらのデータベースは、各都道府県が明治以降毎年刊行してきた各管轄区域の人口、農業、工業など様々な項目についての統計書です。全国規模の統計年鑑等に比べ項目が細分化しており、県の統計書だけに記載されたデータも収録されています。

学内LANに接続された端末（VPN可）より利用できます。

～ 利用可能な地域・年代 ～

中部地域（新潟県・富山県・石川県・福井県・山梨県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県）

明治6（1873）年～昭和47（1972）年



特別利用再開（本館）

7月3日より、感染予防のため中止していた特別利用（清掃中等を除く開館時間以外の時間に、資料の閲覧・複写などが利用できるサービス）を再開しました。

対象は下記の方で、利用には申請と説明会の受講が必要になります。

～申請可能な方～

- (1) 本学の教職員
- (2) 本学の大学院生及び専攻科生
- (3) 当該年度に卒業論文を提出する予定の本学甲府キャンパス学部生



LED化工事の完了について（分館）

6月19日（月）～23日（金）の間に、附属図書館医学分館内の各閲覧室等のLED化工事を行いました。特に大きな混乱もなく、概ね予定通りに工事が完了しました。工事中はご不便をおかけしました。今後は、館内各所で安定した照度・光量でご利用いただけます。

学外の方の利用再開

感染予防のため中止していた学外の方（分館では医療従事者以外の方）の利用を再開しました。今後も状況により利用条件等変わる可能性もありますが、利用者みなさまの安全とサービスを最優先に考えていきたいと思っております。



山梨大学附属図書館医学分館「生と死のコーナー」関連行事 講演会

「訪問看護で出会った“生”と“死”」

入場無料

予約不要

講師：宮崎 和加子氏

(一般社団法人だんだん会 理事長)

日時：令和5年11月7日(火) 18:00～19:30

場所：山梨大学 医学部キャンパス(中央市) 臨床講義棟臨床大講堂



医学分館では、令和5年度「生と死のコーナー」関連行事として、一般社団法人だんだん会理事長 宮崎 和加子 先生を講師にお招きし、講演会を開催します。

宮崎先生は、「訪問看護」、「多職種連携」という言葉ができる前から、これらに従事し、看護の現場からの問題提起の発信と、環境・体制の構築・改善を進めてこられました。医療関係者の方、一般の方問わず、関心のある方は是非、ご参加ください。

なお、講演会は会場・オンラインの双方ハイブリッドで行います。申し込み方法詳細については、後日ホームページ等の広報にてお知らせいたします。

絵画展示 L5アートミックス2024 ～井坂研究室の試み～(仮題)

附属図書館本館では、2024年1月16日(火)～1月26日(金)の期間(予定)、附属図書館本館第二展示室(2F)に於いて、本学教員及び学生による作品(絵画)の展示を実施します。

どなたでもご来場いただけますので、皆様お誘い合わせの上、お気軽にお越しください。入場無料です。



附属図書館企画 ミニコンサート

附属図書館本館では冬の企画として、12月22日(金)(予定)に附属図書館1Fラーニングコモンズに於いて、日頃、本学音楽教員の指導を受けている学生によるミニ・クリスマスコンサート(合唱)を実施します。学内外のどなたでもご来場いただけますので、皆様お誘い合わせの上お気軽にお越しください。入場は無料です。



学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できます。詳細については、<https://lib.yamanashi.ac.jp/>をご覧ください。本館 Tel:055-220-8066(情報サービスグループ)、医学分館 Tel:055-273-9357(医学情報グループ)にお問い合わせください。



山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第21巻第1号

2023年9月28日 発行

編集：館報編集委員会

発行：山梨大学附属図書館
〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37
TEL 055-220-8063

● 表紙：医学部キャンパス(道標)
場所：医学部キャンパス(図書館職員 撮影)